

## 会議録

○事務局 教育委員会教育部放課後対策課 電話：03(3981)1058

|                  |  |   |
|------------------|--|---|
| 附属機関又は<br>会議体の名称 | 令和元年度 子どもスキップ運営協議会   |   |
| 事務局（担当課）         | 教育委員会教育部放課後対策課   |   |
| 開催日時             | 令和元年 11 月 15 日（金）午後 1 時 30 分～午後 3 時  |   |
| 開催場所             | 区役所本庁舎 5 階 庁議室   |   |
| 議題               | 1 開会<br>2 （1）平成 30 年度子どもスキップの事業報告<br>（2）令和元年度子どもスキップの事業計画<br>（3）各委員による意見交換<br>3 閉会 |   |
| 出席者              | 委員   | 白熊千鶴子（豊島区青少年育成委員会連合会 副会長）<br>根岸幸子（豊島区青少年育成委員会連合会 第 6 地区常任幹事）<br>豊島佳代子（豊島区青少年育成委員会連合会 第 2 地区幹事）<br>三原真理子（豊島区青少年育成委員会連合会 第 8 地区幹事）<br>伊東博昭（欠席）（高松小学校校長）<br>堀込広明（小学校 PTA 連合会副会長）<br>藤井芳子（駒込放課後子ども教室地域コーディネーター）<br>西野幸江（池袋本町小学校学校開放運営委員会委員長）<br>田中真理子（子ども家庭部長）<br>兒玉辰哉（教育委員会事務局教育部長）<br>小澤さおり（子ども家庭部子ども若者課長）<br>高桑光浩（教育委員会事務局放課後対策課長） |
|                  | 事務局  | 斉藤英子（子どもスキップ目白所長）<br>馬場智恵（子どもスキップさくら所長）<br>桑原由貴子（放課後対策課児童支援係長）<br>早川裕太（放課後対策課係員）<br>小林弥生（放課後対策課係員）  |

1 開会

高桑委員から開会の挨拶

2 各委員による自己紹介

4 (1)平成 30 年度子どもスキップの事業報告

高桑 光浩放課後対策課長より資料 1 について説明

(2)令和元年度子どもスキップの事業計画

高桑 光浩放課後対策課長より資料 2 について説明

(3)各委員による意見交換

以下経過

○A委員

子どもの事故が多いと聞いたが、一番多い事故はなにか。

○放課後対策課 児童支援係長

打撲が最も多く、骨折も増えている。(怪我の箇所については) 特に指が多いが、以前は突き指と判断された怪我が、骨折と診断されることが多い。

○A委員

単独の怪我か、子ども同士のケンカによる怪我が多いのか。

○放課後対策課 児童支援係長

子ども同士のケンカによる怪我はほとんどない。子どもの自損事故、偶発的に起きた怪我が一番多い。

○B委員

(外国籍の保護者について) 育成委員会にも委員として参加してもらうが、日本語が分からず委員としてコミュニケーションが取れないことがある。音声自動翻訳機の導入予定を予定しているとのことだが、育成委員会へ貸し出していただくことは可能か。

○放課後対策課長

音声自動翻訳機は各スキップへ 1 台ずつの設置を予定している。放課後対策課へ依頼いただければ貸し出し可能である。

○放課後対策課 児童支援係長

音声自動翻訳機はスマートフォンより小さく、スマートフォンの翻訳アプリよりも長い文章を正確に翻訳できる。各言語に対応しているので、様々な国の方へ対応できると見込んでいる。

○B委員

育成委員会でも地域の行事に外国籍の方が参加できる枠組みを作り、受け入れていきたいと考えている。新しく多くの言語を学ぶことは困難なため、ぜひ他の団体にも音声自動翻訳機を貸し出していただけるとありがたい。

○C委員

子どもたちは高松小学校の放課後子ども教室で開催したプログラミング教室にとっても味があるようだ。企業貢献とあるが、そういった情報はどこから来るのか。いろいろな子ども教室で実施できたらいいと思う。

○放課後対策課 児童支援係長

高松小学校のプログラミング教室は、高松小学校の保護者から子ども教室で実施の申し出があった。企業貢献による子ども教室は、企業の方から話をいただくことが多い。メールや窓口に来ていただき話を伺い、子ども教室で実施できるか協議を都度行い、実施できる子ども教室で順番に展開していく。

○委員長

こういった子どもが興味を持つ教室をバランスよく他の小学校にも振り分けていただけるとありがたい。

○D委員

育成委員会の活動でスキップと一緒に11月7日にゲーム大会を行った。育成委員会でスキップと関わっているのはゲーム大会くらいだが、もう少しスキップにも関わっていききたい。

○E委員

子ども教室で全般的に子どもたちと関わっているが団体だと子どもも指示が通らない。個人の自由もあるが、やりたいことの前には一つにまとまる必要があると思うが子どもたちになかなか伝わらず先生方も困っている。親子・幼児・小学生の体操を指導していて小さなころから子どもたちを見ているが、今は保護者が子どもよりしゃべることが多く、子どもに指導したほうがいいのか、保護者ごと指導したほうがいいのか、そういった壁をとったほうがいいのか試行錯誤しながら指導をしている。子どもたちも、体操をしていると汗かいたとか、痛いとか守られていることが前提で、してほしいことや不満が先に出ることが多く感じる。体力から子どもの気持ちも強くなる部分もあるので、日々試行錯誤しながら指導をしていきたい。

○F委員

学校への脅迫メールの件で大騒ぎになっている。PTAでも動員があり見守りを行うことになったが、子どもスキップでの対策はどうか。

○放課後対策課長

学校への脅迫メールが入ったことへの対策について、学校では集団下校を行い、スキップでは一般利用を中止した。スキップを直接利用する児童は保護者とあらかじめ帰りの時間を決めて利用することが多いため受け入れる。学童クラブは受け入れを行い、帰りはなるべく保護者に迎えに来てもらう。保護者が迎えにこられない場合はスキップの職員が安全な場所まで送っていく。

○放課後対策課 児童支援係長

不審者等に対する対応はすでにマニュアル化されている。児童の安全については万全を期している。

○A委員

骨折などの怪我をするのは見守る管理員が少ないという理由もあるのか。

○D委員

管理員などの見守り数の部分で怪我が発生しているわけではないと感じる。歩きなさいと言っても走ってきてしまい、自分で転んで骨を折ってしまう。

○F委員

駒込小学校で校庭にミストを設置したと聞いたが、そういった設備を子どもスキップや校庭開放で設置する予定はあるか。

○放課後対策課長

設置は予定していない。

体育館に冷暖房が入るので、外で遊べないときは体育館を使用する。来年の夏は涼しく過ごしてもらえるのではないかな。

○委員長

体育館に冷房がつき、学校もスキップで使つてということになっているので空いている時間は使えるようになってきていると思う。

○A委員

池袋本町小学校でも冷房がついているが、スキップに貸してしまうと団体利用で使用できないため苦情が来る。スキップの子どもの人数はとても多く、管理員の人数が子どもに対して少ない。管理員も子どもの人数に対して必要な数をきめてほしい。子どもの人数が多いから怪我も多く、何とか対策をとれないか。

○放課後対策課長

子どもスキップの規模はそれぞれ違うが、子どもが多い施設は職員も手厚く配置している。しかし職員の欠員が出ている状況から、子どもの数に対して職員が足りていないのは事実である。

○委員長

非常勤職員や臨時職員の働く環境がよくなっていけば、よい職員がたくさん来てくれる。給料は低いのか。

○放課後対策課長

臨時職員は資格のある方は1,100円、資格のない方は1,040円で、東京都の最低賃金1,012円と比較して高くはないのは事実である。非常勤職員は現状で時給に換算すると約1,600円である。月124時間労働で月額211,000円となり時給に換算するとそれほど安くはないが、月額で見ると給与のみで生計維持ができるか難しいため欠員が出てしまっていると思う。一部の職種では今後月150時間とし月額約27万円が給与となるため、給与面も見てよい人

材が集まるのではないかと。多くの時間を働きたい人、適度な時間働きたい人など様々なニーズを考えて職員がたくさん来てくれるよう考えている。

○委員長

給料が上がることで若い方が働きやすくなるといいと感じる。

○B委員

第三回子どもスキップまつりについて感想がある。子どもスキップ同士が同じ場で出演することで、保護者の前というよりスキップ同士でいい意味で競い合うという心理がわくとより内容の濃いまつりになっていくのではないかと。今年スキップまつりで中高生センタージャンプが高度なテクニックで映像やアコースティックギターを演奏し、昨年よりうまくなっているなど感じた。そういった部分を一般の区民の方にも見ていただきたい。自分たちが地域に声掛けし、スキップまつりを見に行ってもらおう役目だと感じた。準備は大変だと思うが、毎年開催していただけたら子どもの励みにもなるのではないかと。

○委員長

私も子ども教室の指導で参加したが、集まって控室へ行き練習して出演したら解散となり、前後の出し物を見ることができない。子どもたちからも他のスキップを見たいという声がある。時間にもう少し余裕を持ち、出演前後のスキップを見られるよう調整してほしい。待ち時間が長いという意見もあった。

○放課後対策課長

いただいたご意見は来年度に向けて検討したい。地域の方にはスキップまつりの案内をしているが、周知の仕方を工夫しなければいけないと感じた。センタースクエアという場所の来場人数の許容範囲もあるので、様々な意見を参考に来年度もスキップまつりを進めていきたい。

○A委員

スキップまつりの閉会時間間近になると観客もまばらになっていたが、前方の観客席を入れ替え制にして出演スキップの関係者が前の席で見ることができたのはとてもよかった。待ち時間が長いとの意見があったが、出演前の子どもたちが前の席で見られるようにして待機するのはどうか。前の出演者を見ているので、子どもたちも待機時間を長く感じないのではないかと。

○教育部長

(途中参加し前の会議の報告)

学校に対して無差別殺人の予告があり学校は集団下校となった。過去にも同じような予告があったが、あまり混乱を起こさないように、かつ安全な対応を行っている。

○委員長

こういった事件が起きると、学童では保護者に連絡して迎えに来てもらったりと対応が大変である。

○教育部長

本来は保護者に迎えに来てもらうことが一番いいが、働いている保護者は迎えにこられない場合が多く今回学校では集団下校で対応した。

○D委員

令和 2 年度から冷暖房がつくとのことだが、池袋第一小学校は旧文成小学校へ移転するが冷暖房設備はどうか。

○放課後対策課長

旧文成小学校には令和元年 8 月に冷暖房設備が設置された。

○委員長

校庭が使えなくても冷暖房が設置された体育館を使用できるのでありがたい。

○子ども若者課長

子ども若者課、中高生センタージャンプを所管しているが、今年子どもスキップまつりに初めて参加した。スキップごとに頑張っている子どもをみて感動した。中高生センタージャンプ東池袋も今年初めての試みとして、子どもスキップ、区民ひろば、中高生センタージャンプという複合施設の強みを活かして参加でき、調整は大変だったかと思うが世代間交流することができて子どもたちにとってもいい経験ができたのではないかと。スキップまつり開催前の教育委員会で教育委員の方から、中高生センタージャンプのお兄さん・お姉さんが頑張っていたりギターを演奏したりする姿を小学生に見せることはとてもいい経験だと話していたが、実際に見てその通りだと感じた。

○C委員

先ほど団体開放の利用と子どもの利用の話があったが、学校が地域に場所を開放することはいいと思うが、本来は子どもが優先で子どもが使わないときに学校を使用できると団体開放の利用者が感じていただけるといいと思う。

○A委員

池袋本町小学校は登録団体が多く、団体の登録を他の小学校へ平均的に分けてほしい。子どもが優先であることはわかるが、団体開放の利用者も利用したいという気持ちがある。

○C委員

どこの小学校に団体登録するというのルールがあるのか。

○放課後対策課長

団体登録のルールとしては、どこに登録してもいいが事実上使用できない学校に登録しても使用できないため、ほかの場所を案内することもある。条例では登録の拒否はできない。

○A委員

池袋第一小学校が建て替えとなるため、池袋第一小学校の団体登録の方が池袋本町小学校へ来た。旧文成小学校を案内したが、池袋本町小学校のほうが新しいからと登録に来たようだ。

○B委員

団体登録しても使用できる日程、時間は限られている。

○放課後対策課長

使用する前の月に団体登録の利用者に集ってもらい日程、時間を調整している。事務局からの要望だが、午後6時まではスキップで子どもたちが使用するため、団体利用はできれば午後6時以降にしてほしい。

○西野委員

団体開放の利用者にもスキップ優先ということにはしている。

○委員長

明豊中学校では、試験期間中は校庭を使わないので、保育園幼稚園が使用できるという形をとっている。そういった学校を探して園児などを遊ばせることはできるのではないか。

○子ども家庭部長

台風19号の際に、子どもスキップ、保育園、幼稚園も様々な対応を前日から行ったことで、当日も何事もなく過ごすことができてよかったと思う。今後の台風も同じように巨大化していく傾向がある中で、どんな時にどういった対応を保護者へお願いするか常日頃から対策を考えないといけないという教訓となった。

○委員長

椎名町小学校も避難所となり大変だったようだ。台風など災害対応は問題が山積みなので、地域としても考えていきたい。

○子ども家庭部長

地震対策は今までも綿密に計画を立てているが、台風でこれだけの対応をすることは今までなかった。課題ができたと感じる。

○放課後対策課 児童支援係長

今お話しにあったどんな時にどういった対応をとったことは保育園と一緒に子どもスキップでも準備していきたい。

○事務局1

子どもスキップの所長を以前やっていましたが、バスケットボールで自分が投げたボールを自分で取ろうとして骨折したりといった怪我が最近は多いように感じる。体育館にも冷房がついたが、子どもが夢中になると冷房がついていても熱中症の恐れがあるため遊ぶ時間を制限したり、休憩時間をこまめにとったりしていた。冷房がつき夏も体育館が利用できるようになったのはよかった。

○事務局2

子どもスキップまつりに関わらせてもらった。一般の方にも来てほしいとのことで、今年とはしまSCOOPや東アジア文化都市でも宣伝をしてもらったがより大勢の方に知っていただけるよう宣伝方法を工夫していきたい。

○事務局 3

昨年から子どもスキップまつりに携わっているが、昨年のやり方を踏襲する形で今年やらせていただきだんだんと形になってきたと感じる。事故等なく終えることができ一安心することができた。

○事務局 1

子どもスキップまつりに参加したが、最後の富士見台の時に空席が目立つと感じた。発表が終わった後すぐ退場となったので、ござ席で見て控室に戻るといふ工夫も必要かと感じた。

○委員長

保護者の方もわざわざ子どもスキップまつりを見に来てくれていたので、終わったら子どもが発表後に保護者と一緒に見て帰れるような形でもよかったのかと思う。

5 閉会